

# 神武天皇 畝傍山東北陵御休所修繕工事に伴う立会調査

## はじめに

神武天皇畝傍山東北陵（以下、「本陵」という）は、奈良県橿原市大久保町に所在する。その陵域内には、畝傍陵墓監区事務所や御休所がある。本報告は、その御休所修繕工事のなかでも、とくに給水管路の掘削にともなう立会調査にかんするものである。

標記の立会調査は、平成 27 年度に実施した畝傍陵墓監区事務所南側から御休所までの給水管路掘削の際に、施工地における遺構・遺物の有無を確認することを目的として、陵墓課職員が平成 28 年 2 月 6 日から 10 日までおこなった。なお、上記以外の工事期間中は、畝傍陵墓監区事務所職員が随時立ち会った。

## 1 立会地点の状況

**土層** 立会調査地点における土層は、表土（Ⅰ）、遺物包含層（Ⅱ）が確認された。Ⅱ層については、昭和 53 年度の調査時に「Ⅲ層」とされている層に相当する。「Ⅲ層」からは、遺物は出土しているものの「地山とも盛土とも断定しがたい地層」とされている。しかし、今回の調査において、Ⅱ層からは土師器と陶器小片が出土しており、地山とは考えがたい。さらに、Ⅱ層は 50cm 以上の厚さがあり、層が均質であることから、盛土よりも堆積土の可能性が高いのではないかと考えられるが、確定できないため、遺物包含層とした。

**第 1 トレンチ** 畝傍陵墓監区事務所南側から御休所南側手前にかけて、長さ約 40 m、幅約 1 m、深さ約 0.6 m から 0.8 m の掘削をおこなった。遺構は検出されなかったが、Ⅱ層より土師器と陶器の小片が出土した。

**第 2 トレンチ** 御休所南側の南北塀沿いに、長さ約 8 m、幅約 0.7 m、深さ約 0.2 から 0.4 m の掘削をおこなった。遺構・遺物は検出されなかった。

## 2 出土遺物

立会調査で出土した遺物は 7 点で、整理用コンテナ 1 箱分である。すべて第 1 トレンチのⅡ層より出土したが、小片のため、実測はできなかった。土師器には、古墳時代、古代、中・近世のものがある。器種は、中・近世のものが口縁部形状より小皿である以外、不明である。陶器には、壙の口縁部片と行平鍋もしくは土瓶の底部片がある。



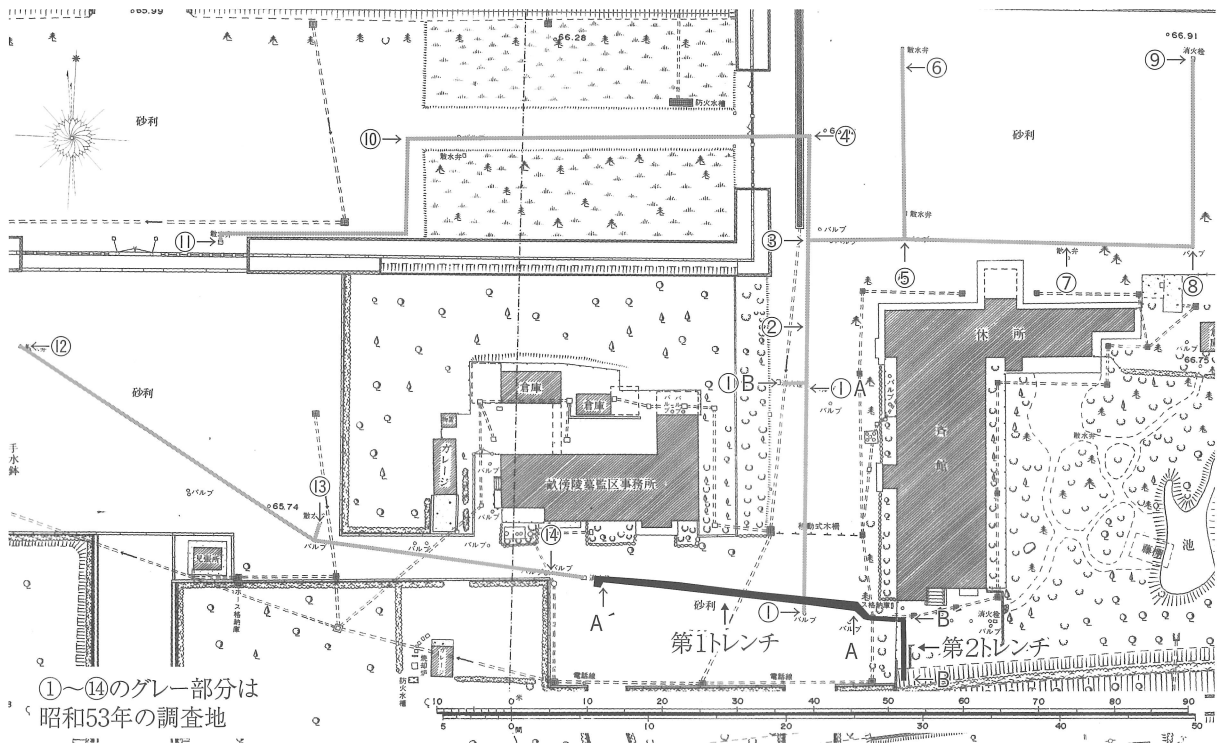
第 36 図 畝傍山東北陵 調査地位置図 (1/25,000)

## まとめ

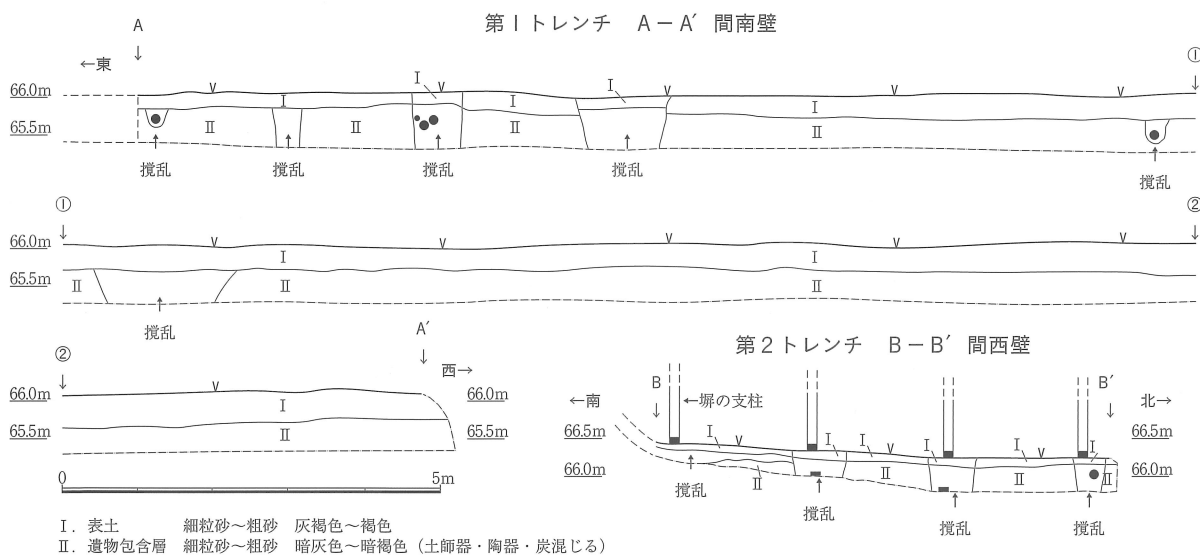
今回の立会調査は、昭和 53 年度におこなった調査の結果をふまえ、遺物の多量出土などに注意した。しかし、調査の結果、遺物の出土は少量で、遺構も検出されなかったため、整備工事は予定どおり施工した。Ⅱ層については、昭和 53 年度調査の報告でも、相当広範囲に広がるものと想定されていたが、今回の調査でも広範に堆積している状況が確認できた。(横田真吾)

## 註

(1) 笠野 毅「畝傍陵墓監区事務所水道管理設工事箇所の調査」『書陵部紀要』第 30 号、宮内庁書陵部、1979 年。



第 37 図 畝傍山東北陵 トレンチ配置図 (1/1,000)



第 38 図 畝傍山東北陵 第 1・2 トレンチ断面図 (1/100)